

三川町方言調査の概要

篠崎晃一・小西いずみ

2002年度開講の「方言学演習」(篠崎晃一担当)の一環として、山形県東田川郡三川町において方言調査を行った。本誌の山本論文以下7本の論考は、その調査結果を報告するものである。調査の目的やご協力いただいたインフォーマントについては各論考でも述べられているが、それに先立ち、調査全体の概要をここに記しておく。

三川町は、庄内平野のほぼ中央に位置し、鶴岡市や酒田市などと接している。面積は約33平方キロメートル、人口は7,879人(平成12年の国勢調査による)。町内は、平坦で、一面に水田が広がり、稲作のほか、メロンなどの栽培がさかんである。1987年以降ほぼ年に1回、「全国方言大会」を開催するなど、方言による町おこしがさかんなところである¹⁾。

調査地として三川町を選んだのは、近隣の鶴岡における共通語化に関する研究や記述的研究の蓄積があり、その成果を参照できることが理由である。

調査は、三川町方言の共時態と動態について方言の体系や言語意識などから探ることを目的として企画した。授業の一環ということもあり、具体的な内容については、各学生が調査内容・調査方法案を提出し、それを参加者全員で検討するという過程を経て決定した。調査参加者は以下の10名である。

教員：篠崎晃一・小西いずみ

大学院生：合津美穂・宮寄由美

学部生：越田みつ美・小橋川 統・田部奈央子・本木隆寛・山崎貴央・山本友美

調査は大きく次の3つに分れ、調査者・インフォーマントにも異同がある。それぞれ順に記していく。

(1) 面接調査

調査者1～数名が、インフォーマントに面接して質問するという形式で行った調査である。調査項目は大きく次の3つに分けられる。()内に記したのはその項目作成の主な担当者で、本誌における各項目に関わる論考の著者にもあたる。ただし、調査は下の3名以外の学生・教員も行っている。

格助詞「サ」の用法に関する項目(山本友美)

存在動詞「イル」のテンスに関する項目(越田みつ美)

「道教え談話」の場面差に関する項目(合津美穂)

調査時は、インフォーマントの了解を得たうえでテープレコーダーに録音した。調査者は調査時に書き取ったものを、調査終了後にテープを聞きなおして追加・修正した。

調査は、2002年9月9日～11日、インフォーマント宅や三川町役場内の一室で行った。インフォーマントについては、表1を参照されたい。世代差を見ることを目的としたため、各世代にわたってインフォーマントを依頼した。インフォーマントは、高年層・中年層・若年層の3世代に分け、高年層は60歳以上(昭和17年以前生まれ)、中年層は35歳～59歳(昭和18～42年生まれ)、若年層は20歳～34歳(昭和43～57年生まれ)とした。表1～3では、高年層はA、中年層はB、若年層はCとし、年層ごとに生年が早いものから順に番号をふつてある。性別に見ると、男性が多く、特に高年層は10名中女性が1名のみである。また、中年層のうち7名と若年層の全員が役場の職員である。

(2) 談話収録調査

方言による自然談話を収録することを目的とした調査(宮寄由美が担当)。同性・同年代で互いに親しい間柄の二人による自由な会話をビデオとテープレコーダーに収録した。ほかに、留守番電話に吹き込む場面と直接会って話す場面とを想定して、友人に会う約束を断るという内容を話してもらうという調査も行ったが、この調査結果の報告は今回は行わない。

この調査も(1)と同じ期間に行った。調査・収録を担当したのは宮寄と山崎である。調査場所は三川町役場内の一室で、必ずしも録音に適した環境ではないが、周囲の雑音は談話の聞き取りには問題がない程度であった。インフォーマントについては表2を参照されたい。中年層が3組・若年層が2組である。調査(1)と重なるインフォーマントには表1と同じ番号を、そうでない場合には表1に続く番号を付してある。

(3) アンケート調査

方言意識などに関わる項目については、アンケート形式によって行った。これには以下の内容を含む。

地域・方言・標準語に対するの評価に関する項目(本木隆寛)

方言と標準語の使い分け意識などに関する項目(小橋川 統)

方言・標準語の使用能力などに関する項目(田部奈央子)

このアンケートは、2002年8月から9月初めにかけて、三川町役場を通して配布・回収した。93人に配布、うち80人から回収、回答として有効と判断し分析の対象とするのはそのうち77名分である(回収率86.0%、有効回答率82.8%²)。インフォーマントの世代別・性別の人数を表3に示す。世代の分け方は(1)と同じである。この調査でも、(1)と同様、世代差を見

たかったため、予め各世代からなるべくバランスよく回答が得られるよう配布した。ただし、高年層ほど女性の割合が少ないという偏りが生じた。アンケートには任意で氏名を記入してもらった。それによると、(1)(2)の調査のインフォーマントの多くがこの調査にも協力してくださっている。

表1 面接調査インフォーマント

年層	番号	生年	性	現住所
高年層	A1	大9	女	土口
	A2	大13	男	横山
	A3	昭7	男	押切新田
	A4	昭7	男	横山
	A5	昭7	男	押切新田
	A6	昭8	男	横山
	A7	昭9	男	善阿弥
	A8	昭10	男	横山
	A9	昭10	男	堤野
	A10	昭11	男	横内
中年層	B1	昭26	男	横内
	B2	昭29	男	加藤
	B3	昭31	女	横山
	B4	昭32	男	横山
	B5	昭33	女	横山
	B6	昭34	女	横山
	B7	昭38	男	横川
	B8	昭39	男	横山
	B9	昭39	男	横山
	B10	昭39	男	押切新田
若年層	C1	昭48	男	角田二口
	C2	昭49	女	横山
	C3	昭49	男	横内
	C4	昭50	男	成田新田
	C5	昭52	男	青山
	C6	昭53	女	押切新田

表2 談話収録インフォーマント

年層・性	グループ番号	話者番号	生年	現住所
中年層・男性	1	B4	昭32	横山
		B11	昭32	猪子
若年層・男性	2	C7	昭50	押切新田
		C1	昭48	角田二口
中年層・女性	3	B5	昭33	横山
		B3	昭31	横山
中年層・女性	4	B6	昭34	横山
		B12	昭28	猪子
若年層・女性	5	C6	昭53	押切新田
		C2	昭49	横山

表3 アンケート調査インフォーマント

	男性	女性	計
高年層	23	1	24
中年層	19	6	25
若年層	17	11	28
計	59	18	77

注

¹ 三川町の概況については、以下の三川町の web サイトを参照。

<http://www.town.mikawa.yamagata.jp/>

このサイトでは、全国方言大会の概要のほか、三川町方言の音声付解説などもある。

² 回収率が高いのは、役場を通じて配布・回収したためと思われる。

謝辞

今回の調査では、お忙しいなかにも関わらず、たくさんのかたがたに方言や地域のことに

ついてお教えいただきました。面接調査にご協力くださったのは次のかたがたです。

安達茂雄, 五十嵐章浩, 五十嵐泉, 五十嵐礼子, 坂尾由美子, 大井 隆,
小野寺正樹, 粕谷真一郎, 粕谷 恵, 木野喜信, 工藤貞三, 黒田 浩,
今野甚太郎, 齋藤一哉, 佐藤栄市, 佐藤ふぢを, 志田徳久, 庄司 寛,
菅原和子, 鈴木 亨, 鈴木美健, 須藤輝一, 高橋誠一, 成田 弘,
橋本彦右エ門, 藤野 健, 松井亜紀子, 百瀬千秋, 山科 貞 (五十音順, 敬称略)
(アンケート調査では, 何人かのかたにはお名前を記していただきましたが, 原則無記
名としたためにお名前を掲げるのを控えさせていただきます。)

また, 企画課の鈴木亨氏を初めとする三川町役場の皆様や佐藤武夫氏には, 調査の実
施にあたって大変なご尽力を賜りました。

ご協力くださった三川町の皆様に深く御礼申し上げます。

(しのぎ こういち・東京都立大学)
(こにし いずみ・東京都立大学)